

あかの焼 の窯開き

2013
10月25 FRI 金
26 SAT 土
27 SUN 日

催し 八女茶玉露キャンペーン／和紙と灯りとトンボ玉展

錦に染まる福智の里で
あかの焼の彩に出会う



Photo/城戸健二

主催/上野焼協同組合(福岡県田川郡福智町上野2811番地) ☎ 0947-28-5864 後援/福岡県・福岡県伝統的工芸品振興協議会・福智町・福智町商工会

町長日誌

▼今年の夏は、全国各地で記録的な猛暑が続き、熱中症で亡くなった人も多数にのぼった。とりわけ、

高知県四万十市で気象観測史上の最高気温41度に達したのは、記憶に新しいところである。▼そんな猛烈な暑さの中で行われた全国高等学校野球選手権大会は、例年通りの熱戦が繰り広げられ、高校野球ファンにとっては、一服の清涼剤になったのではないだろうか。さすがに、どのチームも都道府県を代表して出場するだけあって、十分に鍛えられていることが伝わってきた。49校すべての学校にチャンスはあるのだが、優勝の栄誉に輝くのは一校のみ。その栄冠を手にしたのは、群馬県の前橋育英高校であった。▼技術的な面はもちろん、それ以上に印象に残ったのが同校のチームワークの良さである。他の団体競技と同様に、野球というスポーツは、個々の選手の技量もさることながら、チーム全体の連携が勝敗を大きく左右するスポーツであると言えるのではないかと。そうした意味で、前橋育英高校には、勝ち上がるだけの資格が備わっていたことになる。また、攻撃的守備力を標榜した監督の指導方針も、チームの和を層強固にする役割を果たしたのだと思う。▼野球に限らず守るという立場は、何となく慎重になりがちであるが、日々の練習を通して選手たちに積極的な姿勢を身につけさせた指導力は、すばらしいの語につきる。まちづくりにあてはめてみれば、チームワークは町としての一体感と同義になるのだろうか。いつもながら、高校球児の夢舞台(甲子園球場)での戦いは、多くのことを学ばせてくれる。

浦田 弘二